

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

21 世紀を力強く生き抜く強くて思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

【チーム翔南として教育活動に取り組む】

- 1 確かな学力を携えて、自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
- 2 早期にキャリアを展望し、自律して社会を支える人材を育成する。
- 3 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
- 4 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識）を育み多様性を理解し協働性を備え主体的に行動できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、確かな学力を育成し個々の進路実現へ対応する。
  - (1) 一人ひとりの進路目標をしっかりと意識し、主体的・対話的・深い学びを実践し、疑問から納得に繋がるようアクティブラーニング等の手法を利用した授業改善に取り組む。
    - ア 相互授業公開や研究授業、中学校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
      - ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 29 年度 65.2%）を毎年引き上げ、2020 年度には 70%にする。
    - イ 可能な範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。
      - ※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（平成 29 年度 20 名）などの合格者は 30 名以上輩出する。
  - (2) 「ハートフルほいく専門コース」や地域交流・国際交流など本校の特色をさらに充実させる。
  - (3) HP や学校通信などにより、本校の教育活動とその成果を発信し、開かれた学校づくりを更に推進する。
  - (4) インクルーシブ教育システムの更なる推進
    - 高校生活支援カードを有効に活用するなど、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。
- 2 思いやりの心と健康体力の醸成
  - (1) 人の気持ちが理解できる人権教育を進める。
    - ※人権教育を充実させ対人関係に起因するトラブル（いじめも含む）の未然防止に努める。（平成 29 年度 5 件）【内いじめ：2 件】
  - (2) 健康体力を意識した取組などを推進する。
    - ※健康週間の設置
- 3 心安らげる安全で安心な学校づくり
  - (1) 規範意識をさらに醸成する。
    - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。
      - ※全学年年間遅刻件数（平成 29 年度 10.4 回/人・年、授業遅刻・トイレ退室等含む）を毎年徐々に減らし、2020 年度には 5 回/人・年にする。  
（平成 29 年度 8.3 回/人・年 授業遅刻）を毎年徐々に減らし 2020 年度には 4.3 回/人・年にする
    - イ 広域生徒指導の実施
  - (2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された心地よい教育環境を実現する。
    - ア 日々の清掃活動の充実を図り、施設の維持管理や設備の更新に積極的に取り組み良好な環境をつくる。
      - ※有志による清掃活動参加率（平成 29 年度 14.2%）を毎年増やし、2020 年度には在籍生徒数の 20%にする。
    - イ 火災だけでなく、地震や津波などを想定した防災教育を積極的に行い、防災グッズを少しずつ備えていく。
      - ※定期的な防災訓練に加え、府や地域の防災訓練などにも積極的に協力し、地域とともに防災意識を高める。
  - (3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。
    - ア ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。
      - ※部活動参加率（平成 29 年度 39.3%）を引き上げ、2020 年度には 45%とする。
  - (4) 学校組織力の向上を図る。
    - ※S P 会議（将来構想委員会）、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、フレッシュパーソンチューター会議などを充実させる。
- 4 人材の育成と管理
  - (1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権問題、教育相談など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。
  - (2) 働き方改革を推進する

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>●生徒アンケート</p> <p>1 評価が高かった項目</p> <p>「よくあてはまる」及び「ほぼあてはまる」という肯定的な評価が 7 割以上を占める項目は、「自分のクラスは楽しい(84)」「自分は授業に集中して取り組んでいる(77.6)」「りんくう翔南高校では服装や頭髪の指導がきちんとされている(81.8)」「自分は校則やマナーを守っている(91.2)」「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる(71.2)」「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい(74.9)」「学校で、命と人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い(70.5)」「教室・</p>	<p>【第 1 回 7 月 3 日】</p> <p>●平成 30 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率引き上げについて、地域の中学校との交流行事を立ち上げ、「知っている先輩」がいる状態を作っていくことが上策ではないか。</li> <li>・「総合的な学習の時間」の方向性として、国際理解教育を軸に置くのは学習指導要領の趣旨にそっており、大変良いと思う。</li> <li>・ICT 機器を活用した講座について、タブレット型パソコンが 40 台入り、また各教室に、インターネットが接続できる環境があるなら、活用を促進すべき。</li> </ul>

運動場などは、授業等の活動がしやすいように整備されている(71.4)」「自分は、教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(72.1)」「自分は、学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(74.1)」「先生はいじめについて自分が困っていることがあれば真剣に対応してくれる(71.1)」であった。

昨年度アンケートより向上したポイントは「りんくう翔南高校では、服装・頭髪の指導がきちんとされている(H29年度74.9→H30年度81.8)」と「実力テストとその結果は自分の実力や進路について考えるのに役立つ(71.1)」であった。

自分のクラスが楽しい、授業に集中している、行事が楽しいなどの項目の肯定的意見が高いのは、学校生活が充実していると分析できる。

一方、少数ではあるがクラスが全く楽しくない、授業が分かりにくいと答えている生徒の存在も否めず、今後も一層きめ細かな見守りが必要である。

## 2 評価が低かった項目

「あまりあてはまらない」及び「まったく当てはまらない」が多数となる否定的項目が高かったのは、「りんくう翔南高校の部活動は活発である(H30年度47.7)」および「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と関わる機会が多い(42.5)」であり、昨年度と同様の傾向を示した。いずれも部活動に関わる項目である。これについては、学校運営協議会でも議題となり、今年度から、地域の中学校のクラブと合同練習を取り入れたり、中学校のクラブ顧問と連絡を密にとる等の工夫を行う等、様々な手段を講じてその活性化に向かいたい。

## ●保護者アンケート(在籍691名 回答数234人 回答率33.8%)

### 1 評価が高かった項目

肯定的評価が7割を超える項目は、以下の通り。  
「子どもはクラスを楽しんでいる(78.8)」  
「子どもは授業に集中して取り組んでいる(72.4)」  
「服装や頭髪の指導がきちんとなされている(82.4)」  
「子どもは、校則やマナーを守っている(89.2)」  
「子どもは文化祭や体育祭などの授業以外の学校行事に楽しんで参加している(74.0)」

「先生は子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる(74.1)」  
「教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(73.9)」  
「いじめについて子どもが困っていること画れば真剣に対応してくれる(72.5)」

### 2 評価が低かった項目

否定的意見が多く、肯定的意見よりも否定的意見が高かった項目は、以下の通り。  
「りんくう翔南高校の部活動は活発であると思う(肯定47.4)」  
「学校で授業や部活動で地域の人と関わる機会がある(肯定45.2)」

いずれも生徒アンケートと同様、部活動に関わる項目が低位となっており、生徒に対する粘り強いアプローチ、中学校との連携が重要となっている。

## ●教職員アンケート

### 1 評価が高かった項目

回答率は大幅に向上(30%→77%)した。その中で高位を占める項目は以下の13項目である。  
「生徒は学校生活を楽しんでいると感じる(94.1)」  
「生徒はあなたの授業を理解している(81.3)」  
「生徒指導は、きちんと指導できている(88.2)」  
「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる(81.8)」  
「生徒や保護者に進路の情報をよく知らせている(81.8)」  
「生徒会活動の活性化について工夫している(82.4)」  
「生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している(85.3)」  
「地震や火災などの避難訓練を十分行っている(97.1)」  
「教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている(81.8)」  
「問題行動の防止のために、早期指導に学校全体で取り組んでいる(81.8)」  
「教育活動について、日ごろから教職員で話し合っている(82.4)」  
「常に自己研鑽し、自己の授業をはじめ教育活動全般の向上に努めている(84.8)」  
「いじめ(疑い含む)」が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる(93.9)」

### 2 評価が低かった項目

部活動の活性化(42.4)とPTA活動への参加(47.1)が低い評価にとどまっており、生徒・保護者と同様の傾向を示している。

### 3 その他

昨年度から特に評価が向上した項目は、「基礎力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立つ(43.3→63.6)」である。ベネッセコーポレーションの基礎力診断テストの活用で2年生の学力や学習習慣が急激に向上したことからも、役に立っているという実感に結びついている。

## ●学校の現況について

Q：昨年度協議会の議論となっていた、校則の見直しについて、とりわけ保健室の来室はどうなっているか。

A：保健室来室による遅刻が業間遅刻の集計から外されることになったものの、来室数はほぼ変わりがなく、昨年度と変わらない状況である。

Q：いじめの問題について、今はどのように対応されているか？

A：いじめの問題については、クラスメート同士のいざこざ等にもいじめ防止対策委員会を遅滞なく開催し、組織として対応している。

## 【第2回 10月30日】

### ●学校の進捗状況に対する委員の意見

- ・国際交流行事(香港、中国重慶の学校来訪)が2度成功し、大いに意義深いものとなったが、双方向の交流、すなわち来てもらうだけでなく、こちらからも行く、ということも必要ではないか。
- ・地震や台風があり、施設設備について、きちんとしたメンテナンスや修復が必要。
- ・修学支援について、合理的配慮を行う生徒について、これまでは地域的な優しさがあつたが、学校から積極的に対応しなくても個別対応ができていたが、今後は孤立化を避ける方策が必要ではないか。
- ・2年生については、基礎力診断テストを活用することで、学ぶ姿勢や学習の準備、基礎学力について大幅な向上が見られた。この取組みを他の学年でも参考にすべき。

## 【第3回 3月7日】

### ●平成30年度学校経営計画の評価について(協議) → 高い評価で承認。

<評価項目に関わる意見>

- ・授業アンケート、中学校でも同様のアンケートを取る。点数が非常に高いと感じる。高校になると低くなるイメージだが、いい数字を維持されている。
- ・基礎力診断テストの評価の向上は大変うれしい。このテストの目的は、教職員のPDCAサイクルを回すという意味もある。やりっぱなしではなく、今後の教育に生かしてほしい。2019年度から学びの基礎診断の精度と活用していかなければならない。
- ・次年度も大学入試は厳しさが続くので、2年から進路について積極的に考えることはよいこと。さらに考えるならポートフォリオ、りんくう翔南では「活動記録シート」という形で各自が行事の記録として実施されていることが他校より取組みが進んでいる。

### ●平成31年度学校経営計画案について(協議) → 高い評価で承認。

項目として

ICTを活用した授業展開

国際交流事業を強化し、生徒の学習意欲を向上させる。

いじめ撲滅に向けての人権教育の充実

グローバル人材の育成

キャリア教育

働き方改革の推進

について、説明を行う。

<経営計画案に関わる意見>

- ・国際交流については、この学校からぜひ海外に出かける取組みを設定してほしい。お金の問題があると思うが、できるだけ子どもたちの可能性を広げたい。この取組みによって、別の角度からやる気が向上し、生徒指導の件数が減少するかもしれない。PTAとしても、何とかお手伝いしたい。
- ・変化していく社会の中で現状に対応していく教育をしなければならない。中学校でもアクティブラーニングに力を入れて、発表の時間を増やしているが、高校の授業ではどうか？
- ・(校長)アンケートの結果通り、アクティブラーニング等、先生方が新しいことに敏感に対応している。

## 府立りんくう翔南高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>(1) 主体的・対話的・深い学びを実践し、疑問から納得に繋がる授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p> <p>(3) 教育活動とその成果を地域に発信</p> <p>(4) インクルーシブ教育システムの推進（共に生きる教育の推進）</p>	<p>(1) 授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック</p> <p>・アクティブラーニング等の授業手法の研究実践。</p> <p>・授業改善や進路指導のため ICT 機器の利用拡大。</p> <p>・進路指導部による基礎学力の定期的な測定（外部模試の活用）とその結果の教科担任などへのフィードバック</p> <p>・高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応した、活動記録シート（ポートフォリオ）の導入【新入生より着手】</p> <p>・進路実現に向けた外部模試の有効活用</p> <p>・定期考査前補習や進学希望者補習の実施とともに、特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実</p> <p>・大学・短大・専門学校との連携推進</p> <p>・国公立大学や難関大学合格実績の継続</p> <p>・それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識）</p> <p>(2) 英語をより身近なものとするため、国際理解教育委員会による交流行事の活性化</p> <p>・国際理解教育推進のため国際理解教育委員会の充実</p> <p>・指定校推薦やAO入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大</p> <p>・ハートフルほいく専門コース実習先の検証</p> <p>(3) 授業公開の充実</p> <p>・学校行事への地域住民の参画、連携</p> <p>・HPの充実と教育活動通信等の作成・配布</p> <p>・地域イベントへの積極的な参画</p> <p>・メールマガジンによる情報発信</p> <p>(4) 高校生活支援カードの有効活用</p> <p>・講演会の充実</p> <p>・交流及び共同学習の推進</p>	<p>(1) 授業アンケートの結果平均を昨年度より上昇させる。（平均 H29:3.17）</p> <p>・学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる（H29: 65.2%）</p> <p>・普総選アンケートにおいて“自分を表現する力”の肯定意見を上昇させる。（H29:65.4%）</p> <p>“プレゼンテーション能力”の肯定意見を上昇させる（H29:63.5%）</p> <p>・国公立大学や公務員合格を絶やさない。（H29: 公務員 1 名）</p> <p>・外部模試受験者数を増加させる。（H29: 31 名）</p> <p>・英検受験者数を増加させる（H29: 23 名）</p> <p>・進路未決定者（進学浪人を含み）を減少させる。（H29: 4.9 %）</p> <p>・夏期自主勉強会参加生徒数を増加させる。（H29:61 名）</p> <p>(2) 公募制推薦入試等合格者数を増加させる。（H29: 3 名）</p> <p>・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を増加させる。（H29: 延べ 80+校長 独自 8 校）</p> <p>(3) 学校説明会申し込み中学生数を増加させる。（H29: 314 名）</p> <p>・地域連携活動の活性化を図る。（H29: 11 回）</p> <p>・外部への授業公開を例年並みとする。（H29:3 回）</p> <p>・体育祭、翔南祭への地域住民の参画奨励（H29: 翔南祭へ招待）</p> <p>(4) 高校生活支援カードを有効活用する。</p> <p>・講演会を開催する。</p> <p>・支援学校との交流を維持・発展させる。（H29: 翔南祭での作品展示）</p>	<p>(1) 授業アンケート結果、前期 3.25 後期 3.18、平均で 3.22 とポイントを上昇させた。目標設定面談時における動機づけや、授業見学後の評価シートによる振り返り、外部講師による効果的な研修などが教職員の意識を高めた結果と捉える。更に充実させポイントを上昇させたい。また、ICT 活用には若干の脆弱さを隠さないためその充実にも向かいたい。(○)</p> <p>・学校教育自己診断結果、授業満足度が 65.7%で上昇した。生徒の興味・関心を引くよう、授業改善が効果的に推進されている。今後も主体的・対話的・深い学び（アクティブラーニング）の視点からの授業改善をより推進したい。本年度はディベートなどの授業においてタブレットの活用も確認できた。ICT の活用もますます奨励したい。(○)</p> <p>・普総選アンケートにおいて“自分を表現する力”の肯定意見が (71.1%) と大きく上昇した。非認知能力の向上が確認できる。自尊感情を高めるような様々な事柄にチャレンジさせ、ますます向上させたい。(○)</p> <p>・普総選アンケートにおいて“プレゼンテーション能力”の肯定意見が (62.0%) と若干下降した。全教育活動を通して発表の機会を増加させ、“プレゼンテーション能力”を向上させたい。(△)</p> <p>・公務員は 2 名合格できたが、外部模試や英検受験者数は減少した。今後、様々な教育活動を通して、グローバルな視点で情報を収集、分析させ、チャレンジ精神を育み数値を上昇させたい。(○)</p> <p>・国公立大学や公務員(公務員 2 名合格) (○)</p> <p>・外部模試受験者 (23 名) (△)</p> <p>・英語検定受験者 (13 名) (△)</p> <p>・進路未決定者が (3.6 %) (○)</p> <p>・夏期自主勉強会参加生徒が 84 名と増加した。今後、教育産業との連携を深めるなど、更に発展的にリニューアルさせ参加生徒を増加させたい。(◎)</p> <p>(2) 中国、香港との学校間における国際交流の実現</p> <p>・OFIX との連携で交流事業の実施</p> <p>グローバル人材の育成、広くは、将来、生徒達が活躍する場所を拡大するなど、キャリア教育にも大変意義深い教育活動である。今後とも発展的に継続させたい。(◎)</p> <p>・公募制推薦入試等合格者数は (13) 名で昨年度より 10 名増加させた。今後、様々な教育活動を通して、グローバルな視点で情報を収集、分析させ、チャレンジ精神を育みますます上昇させたい。(◎)</p> <p>・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数は校長独自による訪問が大きく増加し、他は例年並みである。今後は新入生獲得に向け、ますます活性化させたい。</p> <p>中学校訪問など (延べ 86) 回 (○)</p> <p>中学校訪問: 校長独自 (30 校) (○)</p> <p>私塾訪問: (22 校) (○)</p> <p>(3) 学校説明会参加者数は (302) 名 (△)</p> <p>・地域連携活動参加回数 (25) 回と大きく増加 (○)</p> <p>・外部への授業公開数 (3) 回 (○)</p> <p>・体育祭、翔南祭への地域住民の参画</p> <p>地域の老人ホーム(すみれ会)を招待したが、都合により来校されなかった。(○)</p> <p>・校長ブログの更新数は (41) 回と昨年度 (27:年間) 回より増加させた。</p> <p>開かれた学校づくりを更に推進させ、信頼される学校づくりに邁進したい。(○)</p> <p>(4) 入学時、新クラス編成時、日常的且つ問題事象発生時における有効活用 (○)</p> <p>・合理的配慮に関する講演会の開催: ウェクスラー式知能検査の体験研修などの実施 (○)</p> <p>・特別支援コーディネーターによる研修報告会の開催</p> <p>・翔南祭への支援学校の参画(作品展示)</p> <p>インクルーシブ教育システムの更なる推進のため、取組の発展的継続に努めたい。(○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>二 思いやりの心と健康体力の醸成</p>	<p>(1) 人の気持ちを理解するための志学や人権教育の計画  (2) 健康体力を意識した取組</p>	<p>(1) ・志学、キャリア教育等を想定した総合的な学習の時間やホームルーム活動の実施 ・慣例にとらわれないテーマや新しいジャンルから見つめなおす人権教育の実施 ・ICT 機器（一斉配信システム、教室ディスプレイ、プロジェクター、タブレット型 PC 等）を活用した志学や人権教育の充実 ・全教育活動を通して、生徒の人間関係の変化等を見逃さず、適時、修学支援委員会・いじめ防止対策委員会等を開催しチームとして未然防止及び課題の解決に向かう  (2) ・健康週間の設置</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見を昨年度より上昇させる。（H29:86.8%） ・人権テーマを扱った HR や職員人権研修を例年なみに実施する。（H29 年:生徒 5 回・教職員 3 回） ・対人関係に起因するトラブル（いじめの可能性の疑いがある事象）については期を逸することなく指針に沿い組織として対応する。（H29:2 件）  (2) ・校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き週間などを実践する。</p>	<p>(1) ・生徒満足度は 84%と若干であるが下降した。今後、授業、学校行事、HR 活動など、全教育活動の改善に向かい肯定意見を上昇させたい。（△） ・人権研修など生徒向け 8 回 教員向け 4 回と例年並みに実施した。（○） ・重篤な対人関係トラブルを未然防止するため積極的な委員会の開催を心がけ年間に 13 回開催した。結果、対人関係のトラブルは 5 件であった。（△） ・全教育活動を通して「自尊感情」を高め、「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解させ、思いやりの気持ちを育みたい。（○）  (2) ・生徒保健委員会を中心に、保護者・学校医との連携を図り 6 月に歯磨き月間を設置した。事後のアンケート結果により、生徒の歯磨き（健康）への意識が高まった。今後も健康体力に関する取組を推進し生涯を見据えた健康に対する意識を高めたい。（○）</p>
<p>三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 社会構成員としての自覚を高める。  (2) 「美化意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。」  (3) 「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」  (4) 「組織の充実と活性化」</p>	<p>(1) ・全校一斉服装頭髪指導を充実させ規範意識を高める。 ・登下校指導を充実させ通学マナーの向上を図る。（広域生徒指導に着手する） ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。  (2) ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実 ・生徒保健委員会の活性化による生徒の健康意識の増進 ・喫煙防止・性感染症防止・薬物乱用防止教育の更なる推進 ・防災訓練の充実及び防災グッズの充実。又、地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど地域ぐるみによる防災意識の向上 ・憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備  (3) ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動の活性化及びボランティア活動の充実 ・地域中学校との交流の推進 ・生徒主体の体育祭・翔南祭の考察  (4) ・SP 会議（将来構想委員会）国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、フレッシュパーソナリティー会議等の充実、学習発表会の刷新、定例学年団会議・学年主任連絡会等の設立、分掌の統廃合、首席の位置づけの明確化、等 ・学習指導要領の改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価方法の検証</p>	<p>(1) ・停学を伴う特別指導案件数を昨年度なみとする。（H29:18 件、25 名） ・全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり 8 回以下にする。（H29:8.3 回） ・退出等含む合計を昨年度より減少させる。（H29:10.4 回）  (2) ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の 15%にする。（H29:14.2%） ・喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き行い肯定率を例年並みとする。（H29 肯定率それぞれ 95%、88%、94%） ・PTA との連携で防災グッズや避難準備物の購入費を捻出する。  (3) ・部活動加入率を 40%台とする。（H29:39.8%） ・部活動について、地域との連携を深める。 ・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動支援センターなどとの連携を深める。  (4) チーム翔南として組織力を向上させる。</p>	<p>(1) ・特別指導案件は (26) 件 (54) 人と増加傾向にある。カウンセリングマインドと未然防止の基本を忘れず機を逸することなくチームで対応し、その減少に向かいたい。（△） ・遅刻件数、生徒一人当たり平均 (7.9) 回、退出等を含む合計、生徒一人当たり平均 (9.4) 回とともに減少した。日常における毅然としたチーム対応の成果が生徒の自覚を促している。今後も日常における毅然としたチーム対応を充実させ生徒の自覚を更に高めたい。（○）  (2) ・有志生徒による一斉通学路清掃の参加者は 14.3%と目標の 15%に達しなかった。様々な教育活動を通して美化意識や社会貢献の意識を高めその上昇に向かいたい。（△） ・喫煙防止教室 99.6%、性感染症防止講演 91.8%、薬物乱用防止教室 92.2%とそれぞれ高い肯定率を維持している。今後とも発展的に継続させその防止に努めたい。（○） ・事務室との連携により防災対策として発電機を購入した。今後も災害に備え適切な備品の購入に向かいたい。（○）  (3) ・中学校との連携や活性化担当を配置するなど様々な手立てを施しているがクラブ活動加入率は 39%と低下している。更に検証・分析し加入率の向上に向かいたい。（△） ・部活動に係る中学校との交流を 5 回実施した。学校活性化やクラブ活性化のため更に充実させたい。（○） ・ボランティア活動、体験活動 (12) 回 ABC 祭り (泉南市 ABC 委員会)、保育ボランティア (貝塚市子育てネット)、赤十字会議、赤十字合宿、ABC フェスティバル、赤十字防災講習、赤十字発表会、赤十字献血及び活動、泉南署ボランティア (小学生見守り：新聞掲載) (特殊詐欺撲滅キャンペーン 2 回)、歳末助け合い運動。等へ参加した。今後も参加生徒を拡大するなどし自尊感情や社会構成員としての自覚を高めたい。（○）  (4) ・分掌の統廃合完遂 教員定数の減員へ対応し組織を合理的、効率的に運営するため総務部の解消と保健部、生徒会の統合を実現（○）</p>
<p>四 人材の育成と管理</p>	<p>(1) 教職員研修の充実</p>	<p>(1) ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を実施し教職員の力量を高める。 ・働き方改革推進のため週 1 回の定時退庁日 (水曜日)に加え、月 1 回の定時退庁日 (スーパープレミアムフライデー：最終週の金曜日)を設置する。</p>	<p>(1) ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間 10 回程度実施する。（H29:11 回）校長推薦や人権研修含む。 ・月間超過勤務 80 時間以上の回数を減少させる。（H29:6 名、9 回）</p>	<p>(1) ・授業改善 (アクティブラーニング)、部落差別解消法、WISK 検査について、性的マイノリティについて、個人情報保護についてなど効果的な研修を 14 回実施した。【※教員対象と学年集会時など生徒向けも含む】 参加教職員によるアンケート結果も良好である。特に授業改善には大きな手答えがあった。今後もより効果的な研修会を開催し教職員の資質向上に向かいたい。（○）  ・月間超過勤務 80 時間以上の延べ人数が 8 名、延べ回数が 12 回であった。定時退庁を積極的にアナウンスしたが昨年並みの結果であった。新たな手立てを考察し減少させたい。（△）</p>